



おおや



5月号 R7.4.30

学校教育目標「心豊かでたくましい子の育成」

発行責任者
校長 田崎 守

上尾市立大谷小学校 上尾市大字大谷本郷 528 電話 048(781)0120

子供たち同士の豊かな関わり合いの中で育つもの

入学式、始業式に満開に咲いていた桜の花は散り、新緑が鮮やかでまぶしい季節に移り替わっています。心地よい気候になり、子供たちが、意欲的に活動する場面を多く見かけるようになりました。校舎内を回っていると、新しく迎えた1年生のために、多くの先輩が声をかけ、特に同じフロアの6年生は、給食、掃除、休み時間の過ごし方などを丁寧に教えている姿が印象的です。

4月18日は、1年生の入学を祝うために全校児童が体育館に全校で集まり、1年生を迎える会を行いました。6年生が1年生の手を引ながら、花のアーチをくぐって会が始まり、2～6年生から、1年生に心のこもったメッセージを届けられました。それぞれの学年からの発表を見ていた1年生からは自然と笑顔が見られ、和やかな雰囲気の中で会が進行しました。大谷小学校に仲間入りしたことを歓迎する温かい気持ちに溢れていました。



1年生を迎える会の様子

また、以前、私は本校で朝の登校を見守っている際に、忘れられない場面に遭遇しました。登校班で学校に向かう途中、6年生が足取りの重い1年生に対して、共感しながら励ましの声をかけ、1年生は元気に登校できるようになったという出来事です。「月曜日は、荷物が重いし、大変だよな。私も、そうだよ。でも、教室まで行くと、友達と楽しくお話ができるから、頑張ってみようよ。1年生の昇降口まで、私もついて行くからさ。」と、じっくりと考えながら声をかけていた6年生に、私は感銘を受けたのを今でもはっきりと覚えています。

このような相手を大切にできる気持ちは、どのような経過を経て育つもののでしょうか。それは、理屈や知識として学ぶことではない気がします。AI から学び、理解して、行動できるようになる。といったことでもないように思います。日々の生活での試行錯誤しながらの生活の中で、心や体に沁みこんでいくように、人とかかわる中で学んでいくのではないかと思います。かけがえのない学童期を過ごす子供たちだからこそ、その関係性の中で学ぶことに意義があり、将来の豊かな人間性につながると考えます。

今後も大谷小学校では、子供たち同士の関わり合い、支え合いを大切に、しんか(進化・深化・新化)した教育活動を実践できるように、取り組んでまいります。